

令和7年度 第2回高知市広聴広報推進委員会 議事概要

○開催日時：令和8年2月10日（火）18：00～20：00

○場 所：本庁舎4階422会議室

○出席者：吉岡委員長、松岡委員、末村委員、小林委員、三谷委員、川野委員
事務局(川添課長、高橋補佐、松原係長、川久保、田中、柳澤、筒井)

○会次第

1 開会

2 議事

(1) 広聴広報戦略プランの取組報告

(2) 高知市PRソングの完成

(3) 高知市公式ホームページのリニューアル

3 閉会

○項目ごとの意見等概要

(1) 広聴広報戦略プランの取組報告

(広聴戦略)

■高知市市民ウェブモニター

【委員】

ウェブモニターの目的は、若い世代へのアプローチ力を高めるとあるが、登録者の年代とマッチしているのか。

【事務局】

ウェブモニターを導入した経緯は、紙媒体による調査ではなく、ウェブを活用したアンケートを実施することで、若い人にも気軽にアンケートに回答してもらおうとしたもの。

登録制であり、構成としてはまだ若い世代の割合が低くなっている。

【委員】

モニターの8割が女性であるが、ジェンダーバランスの改善策はあるか。

【事務局】

バランスも重要ではあるが、市政に関心のある人の意見を広く取るツールという点も重要であると考えている。

一方で性別構成が偏ってきているので、モニター登録の仕方は今後の検討事項ではある。

■第3期広聴広報戦略プラン

【委員】

テレビや新聞を見ない人が増えてきている。広報「あかるいまち」は全戸配布なので、戦略プランに取り組んでいることを掲載してもおもしろいと思う。毎号広報紙を読んでいる人は、どうやって「あかるいまち」ができていくかという背景にも興味があるのではないか。

【事務局】

どのような方向性で高知市として発信しているかを知ってもらうことは大切と考えている。毎号紙面に余裕はないが、機会を見つけて戦略プランについても発信していきたい。

■高知市LINE公式アカウントの運用

【委員】

通報機能などキャッチボール型でいい取組だと思う。
普及させていくために現状はどのような取組をしているのか。

【事務局】

令和3年の開始当初は2,000人くらいからスタートし、現在約25,000人の登録者数である。開始当初はお友だち登録キャンペーンでポイントを付与していたが、一定登録者数は増えるものの、ポイントだけもらって離脱する方など離脱率も非常に高い傾向があった。

やはり実際に使ってもらい便利さを体感し登録してもらおうという取組が重要だと考えている。

現在の登録者数は高知市規模の人口に対して非常に少ないので、昨年度よりデジタルリテラシー向上に関する協定を締結しているソフトバンク株式会社と連携し、出前講座でのLINE紹介や、店舗でLINE教室を実施し、300人ほどに受講いただいている。

広報「あかるいまち」でも空きスペースがあれば紹介をしており、引き続き広報していきたい。

【委員】

普及率を上げることも大事だが、そこが本来の目的ではないと思うので、キャッチボール型のツールであることを広げていけば、より良いサービスになると思う。

【委員】

LINEの通報機能による通報件数分の電話対応業務が削減できているのはいいことであるが、利用者にはどのように通報機能があることをお知らせしているのか。

【事務局】

通報機能は、メニューボタンに配置しているの周知できているつもりであったが、件数は伸びておらず周知も重要であると感じている。

通報機能は、位置情報や写真の送付ができるという点で、業務のDX化にも貢献できる便利な機能なので、多くの市民に使ってもらえるよう広報していきたい。

【委員】

LINEを相互的な媒体として発展させるために、例えば開庁時間内にLINEから匿名で相談や問い合わせのできる窓口を設置するなど、今後の方向性は。

【事務局】

LINEでできることは年々増えており、これまでも通報機能やごみの検索機能などサービスを広げてきた。昨年度は結婚生活応援給付金の申請もLINE上で行えるようにした。

ご提案の相談機能の実装には、個人情報の取扱いなど整理する必要があるので、引き続き検討していく。

(広報戦略)

■広報「あかるいまち」の充実

【委員】

令和7年度からの変更・検討事項として、リニューアルする高知市公式ホームページとの連携強化というのは、どのようなものか。

【事務局】

紙媒体は掲載できる情報数が限られているので、紙面に掲載した記事は必ずホームページにも情報を掲載するようにし、二次元コードでホームページを読み込むことで詳しい情報が確認できるようにしている。

リニューアル後のホームページとの連携強化とは、分類の細分化やAIチャットボットの導入、検索の仕方を多角的にして増やす等によって、広報紙の二次元コードからホームページを見に来た人に対して、提供できる情報を増やすことを想定している。

市民意識調査では、市が発信する情報の入手方法として広報「あかるいまち」から入手している人が79.7%なので、8割程度は読んでいるということになる。次いでテレビやラジオ47.9%、新聞36.6%、ホームページから9.7%となっている。広報紙を読んでいない人は11.7%なので、ここを補足するためにもホームページとの連携を強化していきたいと考えている。

(組織戦略)

■広聴広報研修

【委員】

これまでの研修は、広報担当者がノウハウを学ぶ研修が多かった印象だが、今回はカラーユニバーサルデザインに特化した理由は。

【事務局】

あまり気付いていない「色」という基本的な部分を理解してもらうために実施した。デザイナーにも講師として参加してもらい、明暗の工夫やフォントの大きさによって情報の伝え方がかわってくるということを理解してもらった。

【委員】

他自治体では、担当者向けと管理職向けの研修を実施している事例があるが、高知市ではどうか。

【事務局】

本市でも担当者向けと管理職向けにそれぞれ研修を行い、管理職の研修では、決裁者である管理職にも広報の視点を学んでもらうことに重点を置き実施している。

【委員】

自身の職場でも職員は日々の業務に忙殺されていて、うまく広報できていないという課題があるので、組織内での相互の広報戦略はとても重要だと思う。今後も力を入れて取り組んでほしい。

【事務局】

当課の職員だけでは発信に限りがあるので、各課の担当者がスキルアップしていくことが発信力のアップにつながるので、役立つような研修を今後も行っていきたいと考えている。

(2) 高知市PRソングの完成

【委員】

GR e 4 NBOYZ (グリーンボーイズ) が顔の出さないことを逆にとり、遊びの部分として発信してもらうことは決してネガティブなことではないと思う。

例えば、シークレット大使のように顔から下の部分でスポット紹介や食材紹介などをインフルエンサーに発信してもらうなど、いろんな遊び方ができるのではないか。

【委員】

若年層に関しては、顔や正体を知らないことは普通になっているので、表に出ていないことはむしろ強みに思っていると思う。

【事務局】

成人式での初お披露目ではリーダーHIDEさん肉声の祝福メッセージを用意していただき、今後も高知市のPRのためにできることがあるならと言っている。顔が出ていないことは強みという意識を持ちながら今後の展開を検討していきたい。

【委員】

今日初めて聞き、市民に知られていないことが問題だと感じている。

X（エックス）では、検索や閲覧履歴に基づいて、高知県や須崎市の投稿が表示される。費用がかからない方法でインプレッションを稼げる方法があればいいと思う。

また、費用はかかるかもしれないがインスタグラマーやフォロワーの多い方に協力してもらうのもひとつの手ではないか。

【委員】

次のステップとして、共に創っていく「共創」。他自治体は、学生に情報発信してもらうことを支援する事業を作るなど、他団体などいろいろクロスさせながら協力者を募っている事例もある。

【委員】

自治体職員が発信する際には、発信する内容や言葉選びなどのプレッシャーがある中で、通常業務と並行して発信することの負担が大きい。外部の力を借りて、協力してもらいながら手を取り合って発信を行うことも一つのやり方だと思う。

【委員】

県内で活躍している人で協力してもらえる人がいれば、できるだけ費用をかけずにできる方法があるのではないか。

【委員】

県外の他大学との交流が多いので、そういう場での周知が必要であれば協力できる。

以 上